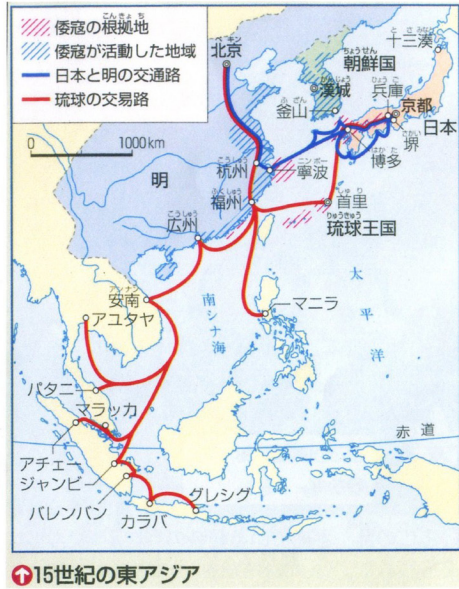


(参考資料) 図版盗作疑惑への育鵬社の弁明は成り立たない。 疑惑追及第3弾

図1



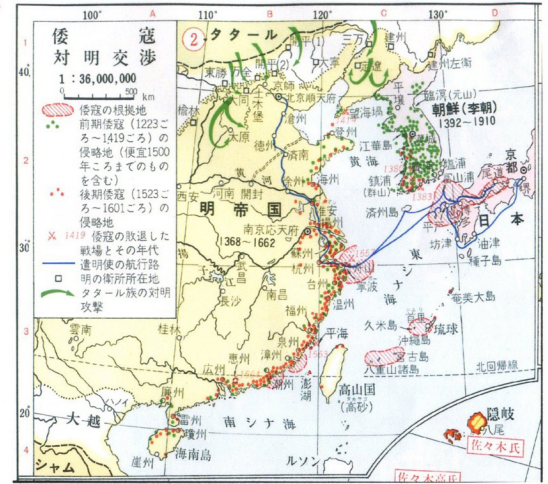
育鵬社「新しい日本の歴史」p77  
(扶桑社版にはこの図版はない)

図2



大阪書籍「中学社会歴史」(2006年版)p62  
(現在は日本文芸出版)

図3



吉川弘文館「標準日本史地図」p24

大阪書籍が図版作成の資料とした歴史地図 倭寇の根拠地や活動地域を簡略化して表現。琉球の航路は別資料から作成。(編集者証言)  
育鵬社も同じ歴史地図から作成と主張。(編集者証言)

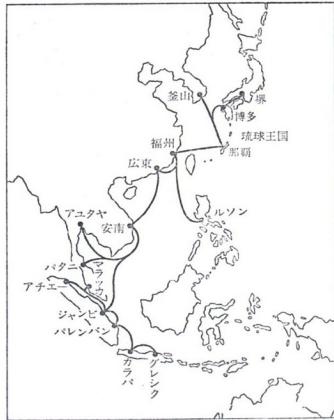


図1 琉球王国交易ルート (14~16世紀)

高良倉吉『琉球の時代』図1琉球王国交易ルート(初版第1刷ではp87)  
(育鵬社が検定時に「原典」として文部科学省に届けたという図版)産経新聞7/12報道

☆大阪書籍は2006年版に図版15世紀の東アジア(上記図2)を載せていました。育鵬社の同名の図版15世紀の東アジア(上記図1)は旧版になく今回初めて登場しました。比べてみると、私たちはあまりにも大阪書籍の図版に似ていることに驚きました。細部を調べてみた結果、育鵬社のこの図版は大阪書籍の図版からの盗作であると判断せざるを得ません。以下にその根拠をあげますので、ご検討ください。

- 図版のとりあげた地域の範囲、地域(国)の色分け、取り上げた都市、河川が全く同じ。  
他社では、範囲が東書・帝国は東南アジアを含まず、色使いもちがいが、都市では東書は坊津や平戸、帝国は坊津・松浦・対馬を取り上げるなど、それぞれに個性があります。
- 図版の説明の囲みの位置・内容が言葉の一部変えただけでほとんど同じ。  
倭寇の根拠地(大書は赤の囲み→育鵬は赤斜線)、倭寇の侵略地域(大書青細斜線)→活動した地域(育鵬青斜線)、日本と明の貿易ルート(大書紺細線)→交通路(育鵬群青太線)、琉球の交易ルート(大書赤)→交易路(育鵬同)  
他社では、東書は、図の中央下の位置に、海上交通路(赤)、倭寇の進路(濃青)、倭寇におそわれた地域(薄青塗りつぶし)、帝国は、図の左下に、明・朝鮮との貿易路(赤)、倭寇が侵入したところ(赤ぬりつぶし)、などそれぞれ違います。
- 育鵬社が元にした図3にも、もう一つの「原典」という高良氏の「琉球王国交易ルート」にもなく、大阪書籍の図版にはある福州から杭州までの琉球の交易ルートが、なぜ育鵬社の図版にあるのでしょうか。

旧大阪書籍の編集者は、「採択期間中なのでコメントはできません。みなさんが判断してください。」と言っています。私たちは、盗作をするような会社は教科書会社としての資格がないと考えます。採択に当たっては、教科書会社の資質を厳しく検討したうえで公正な判断が行われるよう、教育委員会としての最善の努力を求めます。

2011年7月19日 横浜教科書採択連絡会